

日印産連表彰 受賞者の紹介

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、「9月印刷の月」の記念事業として表彰が行われる。本年度は、印刷功労賞 13 名、印刷振興賞 18 名が表彰を受けた。

日印産連表彰規程（抜粋）

◆印刷功労賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①印刷産業界にあって団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した者
- ②その他、前項に準ずる者

◆印刷振興賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①業務の進歩改善に著しく貢献した者、若しくは特に技術優秀な者又は優れた発明考案をした者
- ②多年に亘り後進の指導並びに業界指導に貢献した者
- ③その他、前項に準ずる者

印刷功労賞

酒井 隆

（株）リープルテック
代表取締役社長

印刷工業会



受賞理由

教科書印刷部会の部会長を平成 25 年より、印刷工業会監事を平成 26 年より、共に現在迄歴任する。教科書印刷部会では教科書協会に対し「教科書制作の改善提案」を定期的に発行。業界同士の関係維持に貢献した。また、他部会には多くの社員を委員として派遣し、工業会セミナーにも多数の参加者を送り印刷工業会運営に貢献した。

大澤 春雄

共同印刷株
顧問

印刷工業会



受賞理由

2008 年より 2 年間出版印刷部会の部会長を務め、その間出版業界及び印刷会社双方にとって有益な情報発信を積極的に行い業界の地位向上に貢献した。また自社では、情報系部門（出版、商印）における営業、製造両方の要職のみならず、企画制作部門の部門長をも歴任し、印刷を取り巻く変化に対応する変革の舵取りを行った。

白田 真人

(株)アドビア
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

日印産連前副会長、全印工連前会長、東京都工組前理事長などの要職を歴任。この間、印刷産業の未来を描くビジョン策定の先頭に立ち、産業成長戦略提言2010「ソリューションプロバイダーへの進化」を発表、さらに、2020年に向けた新たな産業成長戦略ビジョンである「印刷道～ソリューション・プロバイダーへの深化～」を発表した。また、全印工連ブランドスローガンとして「Happy Industry 人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」を掲げ、人々の幸せを作り続ける印刷産業を実現する具体的な方策を提言するなど、業界の発展・振興に尽くした功績は多大である。

作道 孝行

作道印刷株
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成24年から26年まで全印工連常務理事、平成26年から28年まで全印工連理事、平成28年から令和2年まで全印工連副会長・大阪府工組理事長などの要職に就く。この間、経営情報の「見える化」による各企業における収益改善と企業改革に向けた啓発を図るとともに、全印工連の事業展開に対し積極的な支援を行った。また、日印産連においても常任理事を務めるなど印刷産業界の発展に尽くした功績は多大である。

溝口 剛司

レスター工業株
代表取締役

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

関西フォーム印刷工業会の理事を18年間務め、大阪支部長時代には数々の勉強会を自ら企画・開催し、会員企業の意識向上を推進。後に関西フォーム印刷工業会の会長職を歴任、4期8年間の長きにわたり関西フォーム印刷業界の価値向上実現に向けて、多大なる貢献をした。

菅野 潔

株興栄社
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成10年9月より長年にわたりジャグラ副会長、理事を歴任。平成20年6月よりジャグラ環境委員会委員長を務める。平成28年6月よりジャグラ副会長および東京グラフィックの会長を務め、グラフィックサービス業の振興と発展に寄与した。また、平成12年8月より日本印刷産業連合会の環境委員会委員(現地球環境委員会)、平成20年6月よりグリーンプリントイング購入検討会委員長を務め、中小印刷業の環境への取り組みに大きく貢献した。

印刷功労賞

稻川俊一

(株)イナガワセーホン
代表取締役社長

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

全製工連副会長、愛知工組理事長の要職を務める。平成30年に全製工連副会長に就任し、紙製品製本専門委員会の担当副会長として、専門委員会の活性化に努めたほか、業界振興のビジョン策定を推進する等の連合会事業の施策・運営に携わり、全国製本業の振興発展に寄与している。愛知工組理事長在任中には、断裁機作業者の安全特別教育の普及に取り組むなど業界及び地域における技術力向上に貢献した。

東光彦

(有)東広告製版
取締役会長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会

受賞理由

激化する業態の環境変化に適応したビジネスの構築、企業経営の基盤確立に努める傍ら、多年に亘って業界組織のGCJ副会長、GC東北理事長等の要職を歴任、その重責を担う。業界組織の多岐に亘る事業全般の運営に積極的に取り組み、組織の円滑な運営と振興発展に努める。組合事業の運営などを通じ、組合員への情報提供、発信して事業展開に寄与した功績は多大である。

岩田真人

(株)岩田レーベル
代表取締役会長

全日本シール印刷協同組合連合会



受賞理由

東海北陸シーリング印刷協同組合理事長を7年、全日本シール印刷協同組合連合会副会長を6年をそれぞれ務め、組織の活性化に尽力した。会員数の減少が顕著になって来た時期だったが、組合・連合会の魅力付けに注視した運営や改革に尽力し、人望は厚くリーダーシップを発揮した。国際感覚を生かして海外の団体(L9)との国際会議にも参加して当連合会の立場をPRした調整力にも定評がある。

赤穂昌之

(株)日商グラビア
相談役

全国グラビア協同組合連合会



受賞理由

8色マルチ校正機（世界唯一のグラビア校正機）は立会印刷作業等において、時間及び資材ロス等の低減と本機の稼働率アップを生み、国内のみならず世界各国へ普及し、氏の主導による種々の機器、機械の開発はグラビア業界の発展に寄与している。また、外国人技能実習制度推進WGの座長として、平成30年より取り組み「印刷職種・グラビア作業」の認定に貢献し、東南アジア諸国への技術向上を図るとともに、日本国内企業への外国人技能実習生への援助にも尽力した。

印刷功労賞

近藤 浩史

株文化社
代表取締役会長

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



受賞理由

平成 27 年度より当連合会環境委員長を務め、日印産連の環境優良工場表彰や GP 制度の普及に尽力した。また環境優良工場表彰を受賞した企業の見学会を毎年開催し、環境への取り組みの重要性に対する会員企業の認識を高めた。更に岐阜組合理事長として平成 30 年 3 月に郡上市で展示会「郡上発見！スクリーン印刷展」を開催し、スクリーン印刷の知名度向上と地域活性化に貢献した。

鶴田 和也

宏和樹脂工業株
代表取締役

全日本光沢化工紙協同組合連合会



受賞理由

平成 18 年に全日本光沢、東京組合の理事に就任、その後、会長、理事長の要職を歴任し、現在も副会長・副理事長として組織をとりまとめる。常に組合事業の運営や業務などに尽力し、組合活動の活性化にも大きく貢献した。平成 29 年には「東京都光沢化工紙協同組合」から「関東特殊加工協同組合」として長年の課題であった他業種との連携を実現し、組合の組織拡大を果たした功績は多大である。

寺田 勝昭

P & E マネジメント
代表

一般社団法人日本印刷産業連合会



受賞理由

印刷業界のグリーン購入制度をゼロから築き上げ、印刷サービスグリーン基準の作成をはじめ、グリーンプリントイング認定制度の創設及び推進の中心として活躍したほか、古紙リサイクルの推進、印刷環境優良工場表彰審査委員を長年務めるなど、印刷業界の環境配慮活動に多大なる貢献を果たした。また、印刷業界の労働安全衛生の普及、印刷工場内の VOC 排出実態調査・削減並びに VOC 警報器普及拡大等の指導を行い、作業環境の改善に貢献した。



印刷振興賞

青木 孝次

宝印刷株
顧問
印刷工業会



受賞理由

1978年入社以来、常務取締役制作部長、取締役常務執行役員営業企画部長等歴任。当社発展に多大の貢献を果たし、又、印刷工業会情報セキュリティ部会に所属し、当該業界の発展にも寄与した。

野口 武夫

日本製紙株
紙パック営業本部 技術部
主席技術調査役
印刷工業会



受賞理由

41年間に亘り液体用紙容器生産における製版デザイン業務に携わり、パッケージ製版の専門知識を駆使し、印刷現場にも入り込み、顧客デザインを忠実にパッケージ上に再現させてきた。また後進の育成にも努め社内の印刷技術力向上に貢献した。

加藤 芳宏

(株)DNPグラフィカ
顧問
印刷工業会



受賞理由

DNPグループの商業印刷部門において東京、宇都宮、関西、中部地区で製造部門の責任者を歴任し、管理者・経営層として後進の指導に深く携わった。業界への貢献は大きく、推薦に及ぶものである。

立山 恵子

(株)金羊社
監査役
印刷工業会



受賞理由

入社以来、営業・生産管理・経理財務部門を経て取締役に就任。この間、業務の標準化に尽力、月次決算の短縮を始め、各種認証制度を積極的に導入、また女性活躍推進部会では中心的存在として特に初期部会運営を支えた。

坂東 謙

(株)坂東印刷
代表取締役
全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成28年から令和2年までの4年間、全印工連理事、徳島県工組理事長および四国地区印刷協議会副会長の要職を務める。また、平成26年から2年間にわたり、全印工連環境労務委員会委員を務め、環境関連情報の収集と積極的な周知・啓発を行った功績は顕著である。

白子 欽也

白光印刷株
代表取締役
全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成24年から令和2年の8年間、全印工連理事、平成24年からの6年間、和歌山県工組理事長および近畿地区印刷協議会幹事の要職を務める。また、全印工連では、長年に亘り官公需対策協議会議長を務め、中小印刷業界の主要な発注先である官公庁からの受注(官公需)に関する取引改善を進め、特に、知的財産権の保護活動に大きく貢献した。

印刷振興賞

喜久里 均

(有)福琉印刷
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成 26 年から令和 2 年までの 6 年間、全印工連理事、沖縄県工組理事長および九州地区印刷協議会理事・副会長の要職を務める。この間、中小印刷産業の地位向上、組織強化の推進に尽力するなど中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

千葉 誠

(株)高速
代表取締役社長

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

ビジネスフォーム印刷の変化に対応するため、印刷技術や加工技術を開発し、新製品の製造と生産性の向上に取組むと共に、2015 年からは日本フォーム印刷工業連合会と関東フォーム印刷工業会の監事として、団体活動に大きく寄与している。

森本 ひかり

(株)新生
取締役

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

中国・四国フォーム印刷工業会の事務局就任以来、日本フォーム印刷工業連合会と連携し、「寺子屋プロジェクト」の全国拡大のため、九州フォーム印刷工業会と中国・四国フォーム印刷工業会の合同研修会を企画・開催するなど、「寺子屋プロジェクト」の各種研修やセミナー等を中国・四国地区へ紹介した。また自身も参加することによって、寺子屋プロジェクト活動を強力に推進した。

中越 忠男

(株)伸光堂
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成 26 年 6 月から現在まで、ジャグラの副会長、理事を務める。また、四国地協会長として、四国地協の組織拡大および活性化に貢献した。中小印刷業界の組織拡大、基盤強化に尽力するなど業界の発展に寄与した功績は多大である。

後藤 卓也

中央印刷㈱
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

平成 18 年 9 月より 22 年 6 月まで理事を務めるほか、平成 13 年より現在まで山形県支部長として組織拡大、活性化に尽力する。また、平成 8 年に設立された「山形謄写印刷資料館」を運営し、平成 28 年よりジャグラ機関誌に「温孔知新」と題し 25 回にわたり謄写印刷について連載したものをまとめて令和 2 年 7 月に 1 冊の本として出版した。謄写印刷の文化や歴史を現在に伝える功績は多大である。

吉澤 晃

(株)吉澤晃文堂
代表取締役

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

平成 22 年より全製工連理事、平成 24 年より東京工組総務委員長に就任し、現在に至っている。この間、組合員加入促進による組織運営の強化に尽力したほか、製本業 PR 施策、周年行事、全国大会運営に携わり、業界の振興発展に寄与している。

印刷振興賞

寺川 務

(有) 日東製本所
代表取締役

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

多年にわたり全製工連理事および大阪工組の副理事長、専務理事の要職を務める。この間、財政の健全化に尽力するとともに、組合の振興ビジョンを策定し、中長期計画に基づく事業運営に大きく貢献している。

竹ノ上 藏造

(株)第一製版
代表取締役社長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

企業経営に従事する傍ら、業界団体組織の要職を歴任、GCJ専務理事・GC東京副理事長として全国及び東京地区の厳しい財政基盤の改善に努めるとともに、多岐にわたる組合の各種事業及び業務全般の運営、振興に尽力した功績は多大である。

森屋 則彦

三協シール印刷株
取締役副社長

全日本シール印刷協同組合連合会



受賞理由

東京都正札シール印刷協同組合、全日本シール印刷協同組合連合会の理事を務め、経営、技術・特許等の各委員を歴任して事業推進に尽力した。特に技術委員として「シールラベルコンテスト」の活性化に努めた功績は大きく入賞常連社として技術力の高さは内外で定評がある。

奥田 拓己

(株)北四国グラビア印刷
代表取締役社長

全国グラビア協同組合連合会



受賞理由

関西グラビア協同組合の副理事長及び全国グラビアの理事を務め、業界の環境問題、社会的責任への取り組みなどを推進している。近年「四国で一番大切にしたい会社大賞」を受賞し、業界の範となり振興発展に貢献している。

後藤暢弘

(有)ゴトウ
取締役会長

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



受賞理由

工業製品からアパレルまで幅広い印刷技術を駆使し内視鏡など新製品開発に寄与した。東北組合では東日本大震災後に東北製Tシャツ共同受注を主導し、技術指導を通じ組合員の技術向上と地域復興に大きく貢献した。

北澤 博子

(株)キタザワ
代表取締役会長

全日本光沢化工紙協同組合連合会



受賞理由

平成22年に東京組合、平成28年に全日本光沢の監事に就任し、共に令和2年まで務める。平成31年度まで、女性活躍推進部会の委員を務め、活動に大きく貢献し、現在も業界の若手女性の指導に努めている。